

令和4年度 江東区立なでしこ幼稚園 自己評価表

園長名 松岡 克恵

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		健康な心と体の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・様々な体の動きができるような運動遊びやコーディネーショントレーニングを取り入れ、幼児と共に遊びを楽しむ。特に「投げる力」を意識した活動を幼児の実態に応じて取り入れ様々な遊びを工夫する。	83%	・毎日、体を十分に動かして遊び、投げることを楽しめる幼児が95%以上になる。	70%	B
2	・日常生活の中で、立って靴を履く、雑巾がけ等教師が意識して保育に取り入れることで体幹、バランス感覚等を養う。	80%	・正しい姿勢で座る、姿勢を保って立つ、立って靴を履ける幼児が90%になる	77%	B
3	・家庭とも連携を図りながら、幼児の食に対する意識を高められるような工夫をする。	68%	・嫌いなものでも食べようとする幼児が80%以上になる。	75%	B
4	・感染症対策に努め幼児、保護者が安心安全に過ごせるよう換気、消毒、三密の回避等を全教職員が確実に実行する。	95%	・正しい手洗い、正しいマスクの着用等感染症にかからないための習慣が身に付く幼児が100%になる。	92%	A

<結果についての分析と改善策>

○分析

- ・コーディネーショントレーニングに親しみがもてるようになり、体を動かすこと（それ以外でも）に対して意欲的になった。（年中）
- ・体を動かすことに対して主体的な幼児が多い。コーディネーショントレーニング等を通して初めは苦手意識を感じていたり体の動かし方がわからなかったりした幼児も楽しめるようになってきた（年長）
- ・「投げる力」を意識した活動を取り入れることができていなかった。
- ・立って靴を履くことを意識できる言葉かけ少なかった。
- ・姿勢を保つことは課題を感じている。食事時や、集合時など、姿勢を一定に保つことが難しい幼児が数名いる。
- ・食に対する意識にもっていく前に、幼稚園という場で弁当を食べる、ということ自体に不安がある幼児が数名いた。（年中）幼稚園で収穫した野菜を食べる経験を何度か繰り返すことで少しずつ苦手なものも食べてみようという意識がもてるようになった（年長）

○改善策

- ・コーディネーショントレーニングは効果があることがわかったので来年度も引き続き取り組んでいく。
- ・投げる動きは教師が意識していないと遊びの中からは出てきにくい。期ごとの計画でおさえる、イメージがもてるような遊びの場（忍者の修行等）を作る、ボールの大きさ、投げ方（的に強く当てる、コントロールして投げる等）を工夫できるようにする。

重点領域 2		学びの基礎となる力を育む			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・幼児一人一人と信頼関係を築きながら実態に合ったわかりやすい指導を行う。	82%	・基本的な生活習慣や発達段階に応じた技能が身に付いている幼児が95%以上になる。	88%	B
2	・就学前教育スタンダードを意識し、全ての幼児に幼児期に必要な体験ができるように環境、援助の工夫を行う。	80%	・試行錯誤しながらじっくり遊びに取り組み、充実感をもてる幼児が95%以上になる	78%	B
3	・教師自ら自然物、自然現象、社会事象等に関心をもち幼児の知的好奇心や探究心を高められるようにする。（幼児の刺激となるような言葉かけ、環境構成、遊びのきっかけ作り等）	77%	・様々なことに興味・関心をもって関わり、不思議さやおもしろさを感じられる幼児が95%以上になる。	83%	B

<様式1>

4	<ul style="list-style-type: none"> 日々の点検、毎月の安全指導、降園時パトロール、避難訓練等を確実に実行し、非常時に対応できるように危機管理体制を整える。 	87%	<ul style="list-style-type: none"> 安全指導、避難訓練の意味が分かり緊急時に適切に行動できる幼児が100%になる。 	88%	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <p>○分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 年中児なりに考える、やってみるということを楽しんでいた幼児もいるが、自分で考えてやってみる！という経験が少なく、自分から動き出すことが難しい幼児もいたため、じっくり遊びに取り組む、ということに課題を感じる幼児もいた。どんな事ならば興味をもって自分からやってみようと思うか、読み取りがうまくできず、反省が残る。(年中) 行事に追われてしまったり教師の見通しの悪さから、一人一人がじっくりと考えたり遊びを深めたりする時間の確保や援助が十分でなかった。幼児の気づきに寄り添ったり学級で振り返ったりする時間が少なくなってしまった。(年長) ほとんどの幼児は、自分の興味・関心のあることに、のびのびと取り組み、生き生きと園生活を楽しんでいるが、試行錯誤する遊びに関しては、取り組みに個人差がある。 就学前教育スタンダードでは期ごとに10の姿の視点から振り返ることで一人一人の育ちや成長、課題が明確になった 避難訓練では、緊急時の避難の仕方がまだ身に付いていない幼児がいる。(年中) 訓練の形態が変わっても放送を聞き、自分なりに考えて行動できる幼児がほとんどである。緊急時に大切なことを幼児と振り返り繰り返し確認していったことで幼児の力となっていた。(年長) <p>○改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が何をしたいと思っているのか、どんな事ならば興味をもって自分からやってみようと思うのか、読み取りや幼児理解を今年度よりさらに丁寧に行う。 教師が様々な事象や環境に興味・関心をもち、幼児と共に遊びを楽しむことで、幼児が探究心をもって遊びを深められるようにする。幼児一人一人の考えやつぶやきを大切にしたり学級で共有する時間をもったりする。 					

重点領域3		豊かな心情を育む			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	<ul style="list-style-type: none"> 動植物に関心をもち教師自らが積極的に関わり、栽培したり、自然物を遊びに取り入れたりする。 	80%	<ul style="list-style-type: none"> 動植物に関心をもち触ったり収穫したりすることで世話の必要性や可愛さ等を感じられる幼児が95%になる 	90%	A
2	<ul style="list-style-type: none"> 人と関わる力が身に付くような遊びや活動を意図的・計画的に取り入れると共に幼児の友達関係を把握し適切な援助を行う。 	77%	<ul style="list-style-type: none"> 友達との関わりの中で自分の気持ちを調整をし、人と関わる楽しさや協力して遊ぶ楽しさを感じられる幼児が90%になる。 	90%	A
3	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや生活の中で様々な感情体験ができるようにし、善悪の判断や道徳性の芽生えを育めるよう状況に応じて、幼児の心に響くような言葉を考えたりや指導方法を工夫したりする。 	80%	<ul style="list-style-type: none"> 相手の嫌がることはしない、きまりを守ることができる幼児、状況を考えて動ける幼児が95%以上になる 	87%	B
4	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の実態や季節に応じた絵本を選び毎日読み聞かせを行う。年11回の絵本タイムのもち方を工夫し絵本に親しめるようにする。 	83%	<ul style="list-style-type: none"> 絵本に親しみ、イメージの世界を楽しめる幼児が100%になる。 	98%	A
5	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の担い手を育むという意識をもち、地球環境、多様性等について幼児に伝わるような働きかけや環境の工夫を行う。 	70%	<ul style="list-style-type: none"> 物や人を大切にしたりいろいろなことを想像しながら自分事として考えようとする幼児が70%になる 	72%	B

<様式1>

<p><結果についての分析と改善策></p> <p>○分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達関係の読み取りが難しい幼児がいた。幼児同士での関わりが読み取れず、援助に困ることもあった。自分の気持ちの調整というところで、まだまだこれからというところである。(年中) ・友達や人とかかわる楽しさを感じている幼児が多く、会話をしたり遊びのイメージを伝えあったりする姿が多くみられた友達と関わる中でトラブルや言葉の伝え方の場面で援助が必要な場面があった。教師が答えを導くだけでなく、幼児が考えられるような言葉がけをしたり幼児同士で解決しようとしている場面では見守ったりした。他人事ではなく学級の仲間として考える姿が見られた。(年長) <p>○改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任一人の目では一方的な見方になってしまったり、担任の前では見せない姿があったりするので、担任以外の教職員も様々な場面で見かけた姿を出し合い、共有していくことを大切にする。 ・友達と関わる楽しさを感じている幼児が多いが、関わり方や伝え方で援助が必要な場面もある。一人一人の思いが伝わるように仲介することを丁寧に行いたい。 ・道徳性や規範意識の面では相手はどういう気持ちだったのか、何故いけなかったのか、どうすればよかったのかがわかるような、一人一人の心に響くような言葉がけを繰り返していく。

重点領域4		教師の資質向上を図る			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（子ども側）	達成度	評語
1	・日々の保育を振り返り、実態の捉え方、幼児理解、援助について毎日、評価・反省を行い、翌日の保育につながる手立てを考え実践する。	83%	・保護者アンケートの「こどもは幼稚園で好きな遊びや学級全体で行う活動、行事（運動会、誕生会、なでこまつり、遠足、年長こども会等）を楽しんでいる。」「保護者の悩みを受け止め子育てについてともに考えようとする」の肯定回答率を100%にする。	79%	B
2	・自分のよさや課題がわかり、得意なことを保育に生かしたり、苦手なことに向かって努力したりする。	74%	・学級全体の活動を楽しめる幼児が多くなり、教師が投げかけた遊びや活動に意欲をもって取り組める幼児が95%以上になる。	92%	A
3	・積極的に教材研究を行い、幼児の実態、イメージ、季節に合った教材を提示したり、遊びが充実するように援助したりする。	75%	・保護者アンケートの「教師は幼児の興味・関心を読み取り遊びがさらに楽しくなるように教材や環境作り、指導方法を工夫している」の肯定回答率が100%になる。	83%	B
4	・教育内容や幼児の変容等を保護者や小学校、地域の方に発信し、理解を深め就学前教育をリードしていくという意識をもつ。	70%	・幼児が試行錯誤しながらじつくりと遊びに取り組んだりこどもの成長を実感したりする保護者が90%になる	77%	B
5	・園内研究会、区幼研等で学んだことを実践する。幼児理解を深めると共に常に新しいことを取り入れ、全ての教師が挑戦しようとする意欲をもつ。	75%	・教師に受け入れられているという安心感をもち、一人一人が学級の友達に受け入れられ、自己発揮できる幼児が100%になる。	95%	A

<p><結果についての分析と改善策></p> <p>○分析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ほとんどの幼児は幼稚園で生活することを楽しんでいる。年長組は行事を重ねるごとに学級の繋がりを感じられていた。日々の保育を振り返る中で、実態の振り返りや援助ばかりに目が行き、その時の幼児の思いに一番に寄り添えていなかったと反省することがあった。 5 区幼研でのインクルーシブ教育の学びから、幼児を多角的に見て、まずはありのままの姿を受け止めよう意識してきたことで、幼児との関わり方も変わった。また、学級の友達同士でも、友達らしさが分かって、学級の仲間としてその姿そのものを受け入れようとする幼児が多くなった。 <p>○改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児理解をさらに深め「何でそのような行動をしていたのか」「こう思っていたのでは…」など、幼児の思いを大切に援助を考えていけるようにする。

<様式1>

重点領域5		地域との連携、子育て支援			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・教育内容が伝わるようにクラスだより、ホームページの更新（週1回）、写真掲示等を行うと共に、幼稚園の良さを保護者、地域に発信し園児数増加を目指す。	88%	・保護者アンケートの「幼稚園は教育方針や教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定回答率が100%になる。	91%	A
2	・様々な人に支えられている気持ちをもてるように教育内容を工夫すると共に、教師も積極的に地域と関わり、地域の中にある幼稚園という意識をもつ。	77%	・様々な人に支えられているという気持ちを感じ、感謝の気持ちをもてる幼児が、80%になる。	77%	B
3	・保護者一人一人の話を丁寧に聴き、保護者の気持ちを受け入れながら信頼関係を構築し、共にこどもを育てているという気持ちを感じ合う。	75%	・保護者アンケートの「幼稚園は保護者の悩みを受け止め子育てについて共に考えようとしている」の肯定回答率が100%になる。	69%	B

<結果についての分析と改善策>

○分析

- ・HPでは、毎週金曜日に確実に更新していったことで、保護者の方が幼児の遊びの様子やどのような意図で行なったかなど、保育を理解していただける機会に繋がっている。
- ・保護者の悩みに寄り添うという点では評価が低かった。園庭開放に残ることで、丁寧に保護者に幼児の姿を伝えられるようになってきたが、十分に話せていない保護者もいる。コミュニケーションの図り方が難しかったり幼児期に大切にしたいことが伝わりにくかったりすることもあった。
- ・図書館訪問や小学校との交流など園外の方との関わりをもてる機会が増えてきた。先の見通しがもてないという事もあり、年度の終わりごろに偏ってしまった。

○改善策

- ・年間で計画を立て、地域に出かけていく機会を増やす。
- ・保護者に「幼稚園は子育てについて共に考えようとしている」と思ってもらえるように（安心感や頑張りを認めてもらえる気持ち、自己肯定感）園庭開放時を使い積極的に話しかけていく。保護者とともに軽作業をしながら気軽に話ができる機会を作る。地域にある幼稚園として就学前教育のセンター的役割が果たせるように教育や施設を地域に開いていく。

【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
 A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
 B：50%以上90%未満
 C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）